

☆～森のおはなし探検隊～☆

1月は「お正月あそび」

コマ・福笑いなどを準備して
昔ながらのお正月あそびを楽しみます。
子どもから大人まで楽しめるプログラムを月替わりで開催！
多くの方のご参加をお待ちしています。

日 時：1月8日（日）13時～

開催場所：子どもホール

参加費：無料・事前予約不要（別途要入園料）

★ゆめある動物園プロジェクト★

「鳥凧づくり」

親子で鳥の体の特徴と飛ぶための仕組みについて学習し、
鳥凧を作る。

「鳥凧づくり」の後は、実際に駐車場に移動して鳥凧を
揚げる。

日 時：1月15日（日）13時～15時

定 員：5組（1組4名様）

要事前申込（1月4日9時から電話にて先着順に受付）

参加費：無料（要入園料）集合場所：里のいきもの館レクチャールーム

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。
詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 1月号 2017年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」17年1月1日発行 通巻167号

～千支「トリ」の企画展～

とりてん



「2017年はトリ年！」

そこで、「トリ」について楽しみながら知っていただく企画展
を開催。飼育スタッフ手作りのトリ型マントで、年賀状用や来
園記念として写真が撮れる「記念撮影コーナー」や「トリ」につい
ての学習コーナーを設置する。

●開催日時：第1部 12月1日(木)～2月27日(月)

※期間中の毎週火曜日、1日1日は休園

第2部 2017年1月2日(月・休)～2月27日(月)

※1月2日(月・休)・3日(火)は、10:00～17:00 開園

●場 所：到津の森公園 管理センター2階ロビー

●展示内容：

第1部 記念撮影コーナーの設置

千支のトリにあわせて、3種類程度のトリ形のマントを設置する。

第2部 パネル解説、ハンスオン、学習コーナーの設置

卵、羽、^{くちばし}嘴、骨、目、足などのトリ特有の形態を紹介する。

花 曆 睦 月

お正月も七日の朝となれば、松の内の気分もすっかり薄れています。元旦朝に誓った、毎日がこのように片付いて、手作り惣菜がたっぷり収められた台所、この姿を保ちたいとの思いはどこへやら。

でも出会う人ごとに“おめでとうございます”と声を掛け合う明るく穏やかな気分だけは忘れまいと思ひ返し、取り掛かる七草粥の準備。野草好きには楽しい一刻です。実際に朝食に七草粥で無事息災を祈る人はいかばかりか、想像もできません。

セリ・ナズナ・ゴギョウ(ハハコクグ)・ハコベラ(ヒヨコグサ)・ホトケノザ(コオニタビラコ)・スズナ(カブ)・スズシロ(ダイコン) これが七草。

マスコミの話題として一日何度耳にすることでしょう。この風習の始まりについては各種あるようです。

一説では、中国で一月一日から六日まで、各日六種の家畜の日とし、七日は人の日(人日)として、人をいたわり、七種の野菜を入れた汁物「七種菜羹」を食すという風習からとか。

我家のベランダに並ぶ植木鉢は、極力増やさないよう気を付けているので、椿や本黄楊の根元には、気の向くままに草の種や実が押し込まれ、あるいはいつの間にか、見知らぬ草が居座り、ミニミニ野草園と化しています。

その中で今一番元気なハコベがまず七草の主人公として、皿倉山を散歩して摘んできたセリ・タビラコなどを刻み込んで朝の一碗としています。

さあ、野性のパワーをもらいました。

庭園の 榊(タブ)の芽ゆたか 日脚伸ぶ

十数年前のあの頃からすっかり元気に蘇った
「到津の森公園」に出掛けよう。

文：花咲くおばさん

森のなかま・フクロテナガザル

大切な宝物

2015年12月24日。フクロテナガザルのクロミは、三度目となる出産を迎えていました。

実はこのクロミ、自ら赤ちゃんを育てた経験がありません。今度こそは・・・と祈るような気持ちで出産を見守りましたが、三度目の出産でも世話をする様子がなく、赤ちゃんは人工哺育(飼育員がミルクを与えて育てること)で育てることにしました。

しかし、母親や周囲のオトナからいろいろなことを学ぶサルの仲間にとっては、母親と一緒に暮らすことはとても大切なことです。

そこで、一日でも早く赤ちゃん和クロミと一緒に暮らせるようにと、少しずつ練習を始めました。練習を始めると、思わぬ効果が。それまで警戒していたクロミの様子が落ち着き、なんと自ら赤ちゃんに触れるようになったのです。その後も毎日練習を続けていると、クロミに母親らしい行動が見られるようになってきました。

そして赤ちゃんが産まれてから286日目には、クロミがしっかりと赤ちゃんを抱くようになったのです。今では、少し心配性なのかな?と思うほどの熱心な母親ぶりを見せてくれています。

赤ちゃんの名前は「ハルタ」。フクロテナガザルの故郷、インドネシアの言葉で「宝物」という意味です。クリスマス・イブの贈り物は、クロミにとっても、大切な宝物になったようです。



飼育展示係 福井 智太